

どの学校でも行き届いた教育を

■ 導入当初からの「二極化」が固定

広島市が05年度に導入した市立中学校の学校選択制は、導入前から学校の序列化(人気校・不人気校)やその固定化が懸念されていました。

実際、広島市では導入当初から他学区からの流入が多い学校と他学区への流出が多い学校が生じましたが、それが実施3年目でほぼ固定化しています(下表参照)。

■ 他学区への流出に“歯止め”なし

広島市では他学区からの受入枠に上限があるため、「人気校」の入学者数が一気に増えることはないものの、他学区への流出を抑える歯止めはありません。毎年1クラス分(35人)以上の生徒が他学区に流出している学校もあり、将来、東京都のように廃校に追い込まれる学校が出る可能性も否定はできません。

*

どの学校にいても一人ひとりに行き届いた教育が行われるよう、学校選択制は廃止すべきではないでしょうか。

市立中学校61校を 集中度指数※でみると…

3年連続で集中度指数が110以上または90以下の学校のみアルファベット表示

	05年度	06年度	07年度
1	A校 120	— 138	B校 131
2	— 118	E校 118	H校 124
3	B校 116	— 118	A校 120
4	C校 115	B校 117	— 118
5	D校 115	C校 116	F校 116
6	E校 114	H校 114	C校 116
7	F校 113	D校 114	— 113
8	G校 112	— 114	E校 113
9	H校 112	G校 112	D校 112
10	— 111	F校 112	G校 111
11		A校 110	
	⋮	⋮	⋮
56	I校 88		J校 82
57	— 83		— 79
58	J校 79		K校 78
59	K校 78	K校 81	I校 77
60		I校 80	
61		J校 70	

たとえば

入学予定者数より**増えた**学校は…

F校の場合 05年27人増 ⇒ 06年24人増 ⇒ 07年35人増
E校の場合 05年27人増 ⇒ 06年39人増 ⇒ 07年31人増

入学予定者数より**減った**学校は…

J校の場合
05年**35人減** ⇒ 06年**53人減** ⇒ 07年**34人減**
K校の場合
05年**36人減** ⇒ 06年**35人減** ⇒ 07年**43人減**

3年間で3クラス分なくなっています!

※集中度指数=(その学校の実際の入学者数)÷(その学校の入学予定者数)×100

集中度指数とは、いわゆる「人気校」「不人気校」と呼ばれる学校間格差をはかるための指数。その学校の実際の入学者数が入学予定者数を上回る場合は値が100よりも大きくなり、逆に下回る場合は値が100よりも小さくなります。



政府・財界が狙う

キケンな「教育改革」3点セット

政府・財界は、学校選択制、教育バウチャー制、学校評価(第三者評価)制度の「3点セット」で教育への国家統制強化と「教育市場」の拡大(いっせい学力テストへの民間参入など)を狙っています。それぞれの制度がどう結びついているのかみてみましょう。

学校評価(第三者評価)

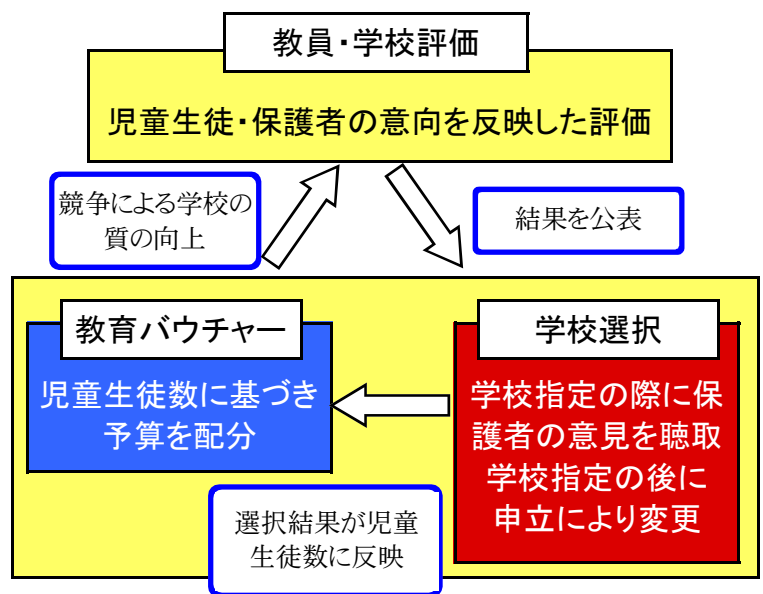
現在多くの学校では、教職員や保護者・PTAなど、その学校の当事者(その学校が良くなければ困る人たち)による自主的主体的評価が行われています。

そんななか、政府・財界は「専門家」による第三者評価制度の導入に力を入れています。そこには、第三者機関による「客観的評価」を基に「問題校」への指導や「問題教師」の処分をおこなうことで、国による教育への監視と統制を強めたいという意図があります。

広島市では03年度に全ての市立学校に「自己評価」が導入されていますが、「定量的な把握が難しい」「客観性に欠ける」などの理由で、第三者評価の実施に向けた検討が進められており、注目していく必要があります。

「与える教育から選択される教育へ」

政府・財界が考える「教育改革」



規制改革・民間開放推進会議の資料から作成(「しんぶん赤旗」より)

教育バウチャー制

教育バウチャー制とは、その学校の生徒数に応じて予算を配分するというものです。現在は学級数を基に予算配分するので、例えば1学年50人の学校と80人の学校を比べると、40人学級ならどちらも2クラスで予算はほぼ同じ。ところが、生徒数を基に予算配分するようになると大きな差がつかます。

学校選択制による生徒の増減が、急激な予算配分格差と結びつくことになるため、不人気校には予算をつけないという「懲罰的な予算配分に近づく」という指摘もあります。

政府の規制改革会議が先頃明らかにした答申案には、「混合診療の全面解禁」とともに「教育バウチャー構想の実現」などが盛り込まれました。政府は来年3月、答申に基づいて「規制改革を推進するための三カ年計画」の改定を閣議決定する予定です。

学校選択制

学校選択制については多くの教育関係者が「学校の序列化を招く」と批判しています。

東京都では「進学実績のある伝統校」「施設の良い学校」が選ばれ、「荒れのうわさのある学校」「小規模校」が敬遠された結果、品川区や荒川区などで“入学者ゼロ”の小中学校が出ています。そのため、生徒“獲得”に向けた「特色づくり」や地域・保護者への「宣伝活動」が過熱し、現場が多忙化するという弊害も生まれています。